

# 木曾山用水

日本海への水を峠越しで引いた命の用水

奈良井川の源流白川より水を取り、権兵衛峠まで山腹を等高線に沿うようにして導き、峠を越えて北沢川へ流すための水路。

経ヶ岳山麓扇状地上の四箇村(与地・大萱・中条・上戸<sup>あがっと</sup>)は幕府領であり、高遠藩が水利権を持つ小沢川から取水ができず、灌漑用水に恵まれていなかった。

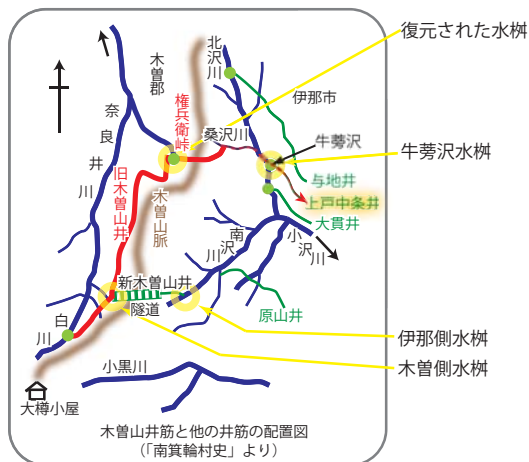
小沢川下流の高遠領三箇村(御園・山寺・西伊那部)と幕府領である四箇村との用水確保の水争いは、1730(享保15)年頃から140年余に及んだ。

1871(明治4)年、廃藩置県により筑摩県となり、水争いを治めるために県から派遣された本山盛徳(権中属(県の役職))により、小沢川の支川北沢川からの引水の許可がおりた。これは江戸時代には考えられない画期的なことであった。

与地と大萱は、北沢川の赤岩と平岩からそれぞれ水を引いた。しかし、中条・上戸の村が小沢川から水を引くには十分な水量がなかったため、木曾谷の水を為替水の仕組みを利用して北沢川に流し取水することを計画した。1883(明治16)年、延長約12kmの用水路(木曾山用水(別名:上戸中条井))が完成した。



権兵衛峠に復元された旧井筋水樹(奈良井川から北沢川への井水の水量を測る施設)



権兵衛峠から伊那谷を望む。峠には分水嶺の碑・古畑権兵衛碑もある。

## information

□ アクセス  
伊那ICから20km  
車で40分

□ 所在地  
塩尻市  
(旧木曾郡榑川村)  
～伊那市上戸、中条



(国土地理院の数値地図50000(地図画像)を使用)

## 為替水とは

取水した水をいったん川へ入れてから別の場所で取水する水のこと。木曾山用水は、白川から一定の水を取水。その水を初めは桑沢川へ落とし、同量の水を北沢(牛蒡沢)で取水した。本来、日本海へ流れる水が、権兵衛峠を越え、この水路を経て太平洋へ流れることになった。1968(昭和43)年にトンネルによる新水路ができ、現在は南沢川に水を落としている。

## 本山盛徳

ごんちゅうぞく  
本山盛徳(権中属(県の役職))は、賄賂により刑を受け、四箇村長も裁きを受けた。本山盛徳の名は島崎藤村の小説『夜明け前』にも登場する。